

The Japan Association of Radiological Technologists
ネットワーク・ノウ

Network Now

2025 No.592

4 / 1

JART情報
<https://www.jart.jp>

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会
〒108-0073 東京都港区三田1-4-28
三田国際ビル22階
TEL. 03-4226-2211 FAX. 050-3153-1519



日本診療放射線技師会、 原子力災害対策指針に基づく 原子力災害医療協力機関に指定される

2025年2月12日(水)に第62回原子力規制委員会が開催され、2024年9月11日の「原子力災害対策指針」および指定要件の改正で、「原子力災害時における医療体制等の整備」の「原子力災害医療の実施体制」にある記載の一部改定が行われました。そこに追加された「全国規模での活動体制を有する原子力災害医療協力機関」として、日本診療放射線技師会(以下、JART)が国に指定される組織として、適切であるかどうかの審議がなされました。

2025年1月に原子力規制庁宛てに提出した申請書の内容を基に、JARTの都道府県の組織率の偏りの程度や、基礎研修・専門研修を受講する意欲のある会員がどれだけの想定なのかなど、意見が交わされました。委員会の内容はYouTubeでリアルタイム配信されていたので、この記事を読んでいる方の中には視聴していた方もおられるかもしれません。議論はおおむねJARTに好意的で、「JARTの事業活動に負担をかけることにならないのか」とご心配いただく意見も出されました。採決では、委員全員の賛成で「協力機関に指定することが相当」との結論を頂き、同日中に決済が完了し指定通知文書を受領しました。

今回の決定に至るには、3年前の2022年3月30日に、原子力規制庁、内閣府ほか関連団体も交えての会議を三田国際ビル地下大会議室で開催したところから始まります。この会議で、原子力災害発生時の専門的知識と技能を持った診療放射線技師の災害時活用について意見交換が行われ、今後の枠組み協議が始まりました。時間はかかりましたがようやく今回、協力機関への指定を頂くことができました。

JARTが原子力災害医療協力機関になったことで、今後は大きな役割が与えられることになります。

現在、全国の(基幹)高度被ばく医療支援センター、原子力災害医療・総合支援センターでは各種研修が行われています。この研修の受講資格は、原子力発電所立地16道府県およ

び隣接として指定されている8府県を加えた24道府県の原子力災害拠点病院、原子力災害医療協力機関に所属するか、もしくは自治体職員であることとなっています。原子力災害時に備えた平時からの救急・災害医療機関が、被ばく医療に対応できる体制整備のための人員確保という観点から、この限定された資格要件については、以前より議論は行われていましたが、今回、JARTが指定協力機関になったことで、JART会員は基礎講習・専門研修を受講できることとなります。2023年5月31日制定の「甲状腺被ばく線量モニタリング実施マニュアル」には「甲状腺簡易測定要員は甲状腺簡易測定研修を受講し、業務遂行に必要な知識と技能を備えている者の中から選任する」とされています。このことから、国が原子力災害対策事業として実施している「甲状腺簡易測定研修」を、ぜひ、JART会員各位にも受講いただきたいと考えています。

この甲状腺簡易測定研修の実施については、各地区技師会でも大きな期待をされていることと思います。国の原子力災害対策事業であるため、JARTとして自由な研修会の開催はできませんが、原子力規制庁・基幹高度被ばく医療支援センターとも密に連絡を取りながら、順次、研修会を全国に広げていきたいと考えて交渉を進めております。



甲状腺簡易測定研修の研修風景

ご不明な点など多いかと思しますので、今後はさまざまな機会を通じてこの研修の位置付けや実施・受講に関するlimitationなどをご説明させていただき、原子力災害時にも国民の安心と安全の確保に役に立てる診療放射線技師である

ための事業を進めていきたいと考えています。

本事業へのご理解とご協力をよろしくお願い致します。

(業務執行理事 江端 清和)

2024年度 がん医療の均てん化に向けた 放射線治療セミナー(基礎編)開催される(Web開催)

2025年2月2日(日)、標記セミナーがWebexを用いたWeb形式で開催されました。

本セミナーは、毎年継続して「放射線計測から放射線治療の安全・質の確保を学ぶ」をテーマに、初学者向けの講習会として企画・立案し開催しています。昨年度「がん均てん化事業における(生涯教育セミナー)基礎コース」として開催したセミナーと同様に、今回も線量計測・計算に関する基礎講座に加えて、実践編と応用講座を企画しました。基礎講座では「高エネルギーX線の吸収線量評価」と「高エネルギー電子線の吸収線量評価」、実践編では「水吸収線量計算ワークシートの実例」をテーマに講義を行いました。応用講座では毎年内容を変えて、ニーズが高いと考えられる話題を提供しており、本年度は「リニアック標準計測法24の概要」をテーマとしました。事前アンケートと共有フォルダを活用し

た講義資料の配布を行い、関係者で綿密な打ち合わせを実施した後に講習会を開催しました。

当日は94人の受講者が参加して前述の4講演が行われ、事後アンケートでは高い評価を頂きました。アンケートでは本セミナーの継続を希望する声が多く寄せられており、今後は頂いた意見を基に、さらに発展した内容を検討できればと考えております。

最後に、講師を務めていただいた信州大学医学部附属病院 小島裕輔先生、太田西ノ内病院 庭山洋先生、産業技術総合研究所 清水森人先生、開催に当たり助言・協力を頂いた当分科会委員、および事務手続きなどをお手伝いいただいた日本診療放射線技師会の皆さまに、この場を借りて感謝申し上げます。

(放射線治療分科会：藤田医科大学 安井 啓祐、

上尾中央総合病院 畑中 星吾)

第46回「医療放射線の安全利用」フォーラム 開催される(Web開催)

2025年2月8日(土)、第46回「医療放射線の安全利用」フォーラムがWebで開催されました。主催は医療放射線防護連絡協議会*であり、本会も加盟しております。

医師の働き方改革が施行され、タスク・シフト/シェアも推進されております。日本診療放射線技師会と日本医学放射線学会などの放射線医学関係学会が共同で、安全で円滑なタスク・シフト/シェアのため、「放射線科医から診療放射線技師へのタスク・シフト/シェアのためのガイドライン集」を作成しました。

今回は、医療法改正後の医療現場で診療放射線技師の業務拡大に伴う放射線安全について、「タスク・シフト/シェアによる診療放射線技師への業務拡大後の放射線安全」がテーマでした。

教育講演Ⅰとして栗原健先生(名古屋大学医学部附属病院)より「タスク・シフト/シェアの推進と医療安全への取り組み」について、教育講演Ⅱとして菊地克彦氏(東京北医療センター)より「放射線診療におけるタスク・シフト/シェアの推進状況」について講演されました。続くパネル討論では、テーマを「タスク・シフト/シェアの推進と放射線安全」と

題し、1.「核医学における留意点」青木卓氏(刈谷豊田総合病院)、2.「IVRにおける留意点」加藤守氏(秋田県立循環器・脳脊髄センター)、3.「放射線治療における留意点」佐々木誠氏(京都大学医学部附属病院)が講演され、その後、大野和子先生(京都医療科学大学)を座長に総合討論を行いました。

※医療放射線防護連絡協議会

日本では、ICRP(International Commission on Radiological Protection:国際放射線防護委員会)の勧告に従って、医療被ばく線量や患者の介護をする家族の医療被ばくなどの問題に取り組んでいます。一方アメリカでは、NCRP(National Council on Radiation Protection and Measurements:米国放射線防護審議会)という組織があり、ICRPに積極的に意見を出しています。日本でも、NCRPに当たる組織をつくり、ICRPに日本の立場を積極的にアピールし、かつICRPに派遣する委員の活動を支援する必要があります。医療放射線防護連絡協議会は、医療分野における放射線(電離放射線および非電離放射線などを含む)防護に関して、関連する学会・団体などが相互に情報交換と密接な連絡交流などを行うことにより、医療における放射線防護・安全管理の向上に寄与することを目的としています。

2024年度 オートプシー・イメージング (Ai) 症例報告会 開催報告 (Web開催)

オートプシー・イメージング (Ai) 分科会 分科会長 小林 智哉

オートプシー・イメージング (Ai) 分科会では、2025年2月2日 (日) に本年度の症例報告会を開催しました。本報告会には、事前参加登録者数32人、当日参加者数28人となり、活発な議論が交わされました。会は以下の3部構成で進行了しました。

第1部：セミナー「死後変化を学ぼう (2) 成人の死後変化 頸部～体幹部」

講師：山本正二先生 (Ai情報センター)

Aiチェックシートを活用した体幹部の読影についての講演が行われました。死後CTの読影では、死後変化と病的变化の区別が重要であり、蘇生術後の変化にも留意する必要があることが強調されました。蘇生処置を受けた症例では、肋骨骨折やガス像などが病的变化と誤認されることがあるため注意が必要です。また頸部撮影の重要性についても言及され、窒息や外傷の評価では適切な撮影が求められることが指摘されました。

第2部：ミニレクチャー 「Aiにおける画像データ管理」

講師：加藤勲 委員 (オートプシー・イメージング (Ai) 分科会)



2024年度オートプシー・イメージング (Ai) 症例報告会
Aiにおける画像データ管理

大垣市民病院 加藤勲

個人情報の適切な管理と放射線の線量管理について解説が行われました。特に、生体とAiの線量管理を分けて考えるべ

きであることが指摘されました。生体では診断目的での被ばく線量が制限される一方、Aiでは撮影条件が高く設定されます。線量管理をする上で、同様の撮影として解析されると過剰な線量照射として誤認されるため、適切な対応が必要であることが示されました。

第3部：症例報告 (3例)

症例報告者：中川太樹 委員・金山秀和 委員・高橋伸光 委員
(オートプシー・イメージング (Ai) 分科会)

本年度の症例報告では、分科会委員より低体温症・消化管出血・窒息の3症例が提示され、それぞれの画像所見や読影のポイントについて示されました。典型的な画像所見や症例に応じた画像処理が示され、Aiに携わる診療放射線技師に求められる要素が共有されました。

本報告会を通じて、Aiにおける診断精度の向上と、実践的な知識の共有が促進されました。Aiチェックシートの活用、線量管理の適正化、画像所見と画像処理について具体的な議論を行うことができました。今後も本分科会では、Aiに関する実践的な撮影、画像処理技術の向上を目指した活動を行っていきます。



第1回オートプシー・イメージング (Ai) 症例報告会 開催風景 (Web開催)

第1回オートプシー・イメージング (Ai) 症例報告会 担当者

担当	氏名	所属	講演内容
セミナー 症例報告会・解説	山本 正二 先生	一般財団法人Ai情報センター 理事長	死後変化を学ぼう (2) 成人の死後変化 頸部～体幹部
ミニレクチャー	加藤 勲 委員	大垣市民病院 (岐阜県)	Aiにおける画像データ管理
症例報告1	中川 太樹 委員	医療法人至誠会 保利病院 (熊本県)	低体温症
症例報告2	金山 秀和 委員	島根大学医学部附属病院 (島根県)	消化管出血
症例報告3	高橋 伸光 委員	奥州市総合水沢病院 (岩手県)	窒息

2024年度 超音波実技講習会 開催報告

日本診療放射線技師会 副会長 江藤 芳浩

※第1回：「腹部領域」は3月号(第591号)に掲載されています。

第2回：「心臓領域」

2025年2月9日(日)、専売ビル「専売ホール」で、2024年度第2回超音波実技講習会「心臓領域」が開催されました。

心臓領域の超音波検査は今まで実施しておりませんでした。今回、初めての開催となりました。

受講者には講習会前に座学としてe-ラーニングを視聴していただき、講習会当日は超音波装置4台、講師8人による実技指導を受けていただきました。20人の参加申し込みがありましたが、寒波による悪天候や体調不良などにより、残念ながら当日は14人の受講者となりました。しかし、受講された方々は十分な時間をかけて実技や講師の指導を受けることができ、非常に満足されていました。

心臓領域は形態を観察するだけではなく、機能評価を行う必要があり、そのためには正確な断面を描出し、血流の速度や圧格差、組織ドブラなどのさまざまな計測を行う必要があります。初心者にとっては難しい検査になりますが、心臓超音波検査を習得することに



よる循環器領域の知識向上は診療放射線技師のキャリアアップにつながります。

今後、超音波検査はさらに発展していくと考えています。一人でも多くの会員が超音波検査に携わっていただき、診療放射線技師としての専門性を一層発揮していただくことを願っております。

最後に、当講習会開催に当たり実技指導をしていただきました講師の皆さま、超音波装置をご提供いただきました株式会社フィリップス・ジャパンのスタッフの皆さま、日本診療放射線技師会関係各位に感謝申し上げます。

第3回：「血管領域」

2025年2月16日(日)、専売ビル「専売ホール」で、2024年度第3回超音波実技講習会「血管領域」が開催されました。

当実技講習会は受講者23人、講師10人を5班に分け、午前10時から午後4時までプログラムに沿って実施されました。

血管領域として頸動脈と下肢静脈を対象に行われ、血管解剖、被検者の基本体位(肢位)、プローブ走査方法、血流計測法と血流波形の見方、検査における注意点、接遇などを習得していただきました。受講者の多くは未経験者や初心者ですが、血管超音波検査のエキスパートである講師が、受講者一人一人に丁寧に指導し、血管検査の基礎を学んでいただきました。受講者から講師への質問も盛んに行われ、多くの方が熱心にメモを取る姿が印象的でした。

受講者の方々には、講習会で得た知識と走査技術を臨床業務に生かしていただきたいと思っています



す。またシニアの方々にはセカンドキャリアとして、災害支援に関心のあるの方々には、医療施設の業務支援や避難所での超音波検査に生かしていただけることを願っています。本会の超音波検査関連事業がますます発展し、一人でも多くの会員が超音波検査に携わっていただくことを願っております。

最後に、当講習会開催に当たり実技指導をしていただきました講師の皆さま、超音波装置をご提供いただきましたコニカミノルタジャパン株式会社、株式会社フィリップス・ジャパンのスタッフの皆さま、日本診療放射線技師会関係各位に感謝申し上げます。

2024年度 マネジメント研修会 (Lv5) 開催報告

人材育成委員会 委員長 高橋 俊行

2025年2月15日(土)、国立がん研究センター研究所(東京都中央区築地5)でマネジメント研修会Lv5が開催されました。Lv5の研修会は現在のマネジメントラダーが発足して以来、初めての開催となりました。

研修の参加者は13人で、北海道地区から九州地区まで広範囲の地域より参加していただきました。研修会の対象者は技師長や病院部長職の職位でしたが、今回、ご参加いただいたのは、現在、技師長の職位で引き継ぎを考えておられる方や、今は職位はないけれども今後のために研修にいらした方まで、多岐にわたっていました。

内容は、「法人経営を顧みた中期計画作成について(グループワーク)」や「人材育成に関するポイントと対応法(グループワーク)」など、経営の視点に関わることや人材育成について研修を行いました。また法律関連で必要となる「保健



所・原子力規制庁による立ち入り検査の対応について」や、経営層とのやり取りで大切な「法人の経営層、行政機関に対するコミュニケーションスキル」も研修しており、参加された方々からは非常に好評を頂きました。

今後の予定として、2025年度からは研修会を参集型からWeb型に移行する予定です。これからも、診療放射線技師の方々にご参加いただけるような研修会を運営してまいります。

2024年度 放射線被ばく相談員フォローアップ 講習会 開催報告 (Web開催)

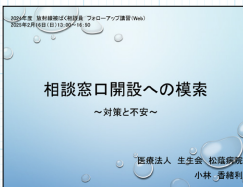
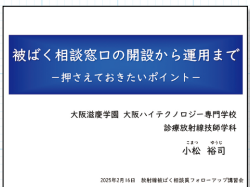
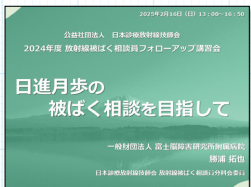
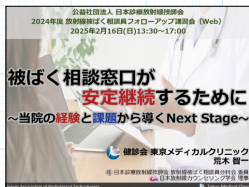
放射線被ばく相談員分科会 分科会長 五十嵐 博

2025年2月16日(日)午後1時から、標記講習会をZoomで開催致しました。日曜日の午後にもかかわらず、全国から82人と多くの方のご参加がありました。今回のテーマは「被ばく相談窓口の開設」でした。

国際医療福祉大学市川病院の豊留章裕先生の司会で始まり、東京メディカルクリニックの荒木智一先生による「被ばく相談窓口が安定継続するために～当院の経験と課題から導くNext Stage～」では、窓口開設でご苦労された点、チャットボットの活用などのお話がありました。野田総合病院の笹崎俊宏先生の「被ばく相談窓口の開設と10年の歩み」では、東日本大震災後の原発事後によって、住民からの要望に応えるかたちで相

談窓口を開設した経緯などについて、富士脳障害研究所附属病院の勝浦拓也先生による「日進月歩の被ばく相談を目指して」では、医療被ばく低減施設認定の準備として相談窓口を開設したことなどについてお話がありました。大阪ハイテクノロジー専門学校の小松裕司先生による「被ばく相談窓口の開設から運用まで一押さえておきたいポイント」では、相談後の記録の重要性などについて、松蔭病院の小林香緒利先生による「相談窓口開設への模索～対応と不安～」では、相談窓口開設への不安や障害などについてお話がありました。

「総合討論」では、Q&Aを用いて受講者の皆さまからの質問に答えたりアドバイスをしたりと、充実した時間となりました。これからも、放射線被ばく相談員の皆さまが活躍できる環境づくりについて積極的に支援してまいります。



令和6年度 近畿地域診療放射線技師会 学術大会 開催報告

公益社団法人大阪府診療放射線技師会
副会長 佐原 朋広

2025年2月9日(日)、大阪市のグランフロント大阪で令和6年度近畿地域診療放射線技師会学術大会が開催されました。本大会は、近畿地域診療放射線技師会の中で大阪府診療放射線技師会が主催しました。大会テーマは「変革・イノベーション～新たな一歩を踏み出そう～」です。

本大会では、新型コロナウイルス感染症が収束したため、多くの人々と討議および意見交換ができるよう対面式のみで開催しました。参加人数は368人と当初の想定を大きく上回る数となり、全ての会場で活気あふれる議論が行われました。

本大会では、一般演題30題、JART上田克彦会長による教育講演、特別講演、ランチョンセミナー、JARTシンポジウム、放射線管理士分科会企画、府民公開講座と、大会テーマを俯瞰する内容でプログラムを構成しました。

ここで少し本大会の内容を振り返ってみましょう。JART上田会長による教育講演「人口減少時代の診療放射線技師の役割」では、人口減少時代における診療放射線技師の地域医療への貢献、多様な業務への対応、新たな働き方の模索ならびにJART組織の重要性が示されました。大阪公立大学医学部附属病院技師長の市田隆雄氏による特別講演「戦略的に変革・イノベーションへ向きあうーAll Japan Radiologyに秘められている術ー」では、長年の技師としての経験から、市田氏は“技術者としてのスキルを向上させ、放射線科医と共に放射線医学の進歩に貢献することが重要”と熱心に語り、聴衆は、彼の言葉に大きな感銘を受けていました。府民公開講座「放射線科×AIで世界の健康を実装する」では、医療AI(画像診断へAI:人工知能を利用する研究分野)の先端研究者、大阪公立大学大学院医学研究科准教授の植田大樹先生にご講演いただきました。植田先生には、医療AIの現在までの研究成果と未来展望、自身のビジョンである“AIで世界の健康を実装する”について、分かりやすく解説いただきました。また昨年度に引き続き、ソウル市放射線士会と国際交流を行い、朴会長を含む8人の韓国の診療放射線技師が本大会へ参加しました。

本大会前日には、ソウル市放射線士会の皆さまと共に大阪公立大学医学部附属病院の中央放射線部を見学しました。特にMRIとリニアックが融合した放射線治療装置“MR-LINAC”の見学では、放射線治療へMR画像を利用する重要性と、



会場の様子

MRIとリニアックが一体化することで生まれる高い治療精度に、驚きと感銘を受けていました。病院見学の最後に病院屋上で記念撮影を行いました。



病院見学後の記念写真：ソウル市放射線士会の皆さまと

最後に、本大会にご参加いただいた皆さま、協賛いただいた企業さま、近畿地域理事の後藤吉弘会長をはじめ、近畿地域でご協力いただきました皆さま方に深く感謝申し上げます。次回、令和7年度近畿地域診療放射線技師会学術大会は、2026年2月に京都府診療放射線技師会主催で開催予定です。本年度と同様に近畿地域の診療放射線技師会一丸となって、次回大会が成功するよう尽力致します。会員の皆さま、次年度大会へ多数のご参加をお待ちしております。



レントゲン週間 イベント開催される



本会では、1895年11月8日のW.C.レントゲン博士によるX線発見を記念し、毎年11月2日～11月8日の一週を『レントゲン週間』と制定しています。

この『レントゲン週間』にちなみ、放射線の専門家として正しい知識を国民に伝えるとともに、私たちの仕事を知っていただくためのイベントとして、本年度も各県（診療）放射線技師会の協力を得て、各地でさまざまなイベントが開催されました。

FUKUI

令和6年度健康フェア

- 日 時：2024年10月6日(日)
- 開催場所：ショッピングシティ ペル 3階あじさいホール
- 参加者：会員5人

フェアは主催を含め18団体の参加があり、体験や健康チェックコーナーが用意されました。本会では超音波式骨密度測定を実施しました。午前10時の開場とともに多くの来場者が押し寄せ、午後3時の終了まで間が空くことなく測定しました。最終的には来場者数464人、うち骨密度測定者は234人と大盛況で、公益事業の一環としてその役目を果たせたと思います。(福井県診療放射線技師会 理事 馬場 国晴)



IWATE

公開講演会

- 日 時：2024年11月17日(日)
- 開催場所：プラザおでって
- 参加者：運営11人、会員6人、一般83人

コロナ感染症のため、2020年よりWeb開催での公開講演会となっていました。5年ぶりの会場型での開催となりました。

無料骨密度測定、乳腺ファントム触診体験、職業紹介・仕事内容の説明、「睡眠と健康の関係性」をテーマに無料公開講演会を開催し、大変好評を頂きました。

雨天にもかかわらず、多くの方々にご参加いただき、地域の健康進進に貢献することができました。(岩手県診療放射線技師会 理事 佐々木 祐輔)

無料公開講演会

睡眠と健康の関連性

—知って得する睡眠障害—



睡眠は私たちの健康と幸福にとって非常に重要とされています。質の良い睡眠を十分に取ることは、健康的な生活を送るために不可欠です。

講師
西島 嗣生 先生
岩手医科大学睡眠医学科教授

開催日 2024年11月17日(日)
講演時間 15:00~16:00
開催場所 プラザおでって 3F 大会議室
※席に限りがございます

■ご希望される方へ
無料の超音波骨密度測定を実施いたします
(実施時間 13:00~14:50まで)

主催・お問い合わせ 一般社団法人 岩手県診療放射線技師会
TEL: 019-698-2155 (9時~16時)
URL: <http://www.watecc.com/>
Mail: watecc@watecc.com

共催 公益社団法人 日本診療放射線技師会
後援 岩手県 盛岡市



第5回

第41回日本診療放射線技師学術大会

福井への道 Go To FUKUI

実行委員長 佐々木 基充

(公益社団法人福井県診療放射線技師会 常務理事)



ちょっと鯖江市、越前市に立ち寄ってみては…

今回は、私が住む鯖江市と、職場がある越前市についてご紹介させていただきます。

福井県の中央部に位置する鯖江市は、世界的に有名な「眼鏡のまち」として知られています。

眼鏡産業の始まりは明治時代にさかのぼり、農家の冬の間の副業としてスタートしました。私がか子供の頃（40年くらい前）は、友達の家遊びに行くとき眼鏡の加工に携わっていたり、パーツごとに分業制で経営する小規模な町工場が至る所にありました。福井県が社長輩出において40年以上日本一であるのも、この産業体制が大いに関係しているようです。眼鏡の加工は時代とともにセルロイドフレームからチタン素材を用いた製品に変わり、よりデザイン性や機能性に富んだ眼鏡に変わっていきました。現在では**国内生産の95%以上を占める眼鏡産業が有名な街**となりました。皆さんがかけている眼鏡がMade in Japan なら、それはMade in Sabaeと言っても過言ではありません。市内の随所に眼鏡をモチーフにしたオブジェやイラストがあります。最近では、高度なチタン加工技術を用いて**手術機材などの医療機器の製作**も行っており、医療業界との密接なつながりもあります。そんな高度な技術とデザインを持ち合わせる鯖江で、お気に入りの眼鏡を作ってみてはいかがでしょうか。



越前市は鯖江市の南にあり、旧武生市と今立町が合併して誕生した、越前和紙や越前打刃物などの伝統工芸が盛んな地域です。そしてお伝えしたいのは、私のソウルフード「越前おろしそば」。これは、戦後間もない1947（昭和22）年に昭和天皇が行幸で来県された際に提供され、昭和天皇はおかわりを所望されるほどお気に召し、東京に戻ってからも「あの越前のそばが…」と懐かしがられるほどでした。このエピソードから、広く「越前おろしそば」の呼称が定着することとなりました。そのようなおろしそばを提供する店が越前市内に多くあります。ちょっとした食堂でも手打ちそばの提供を行っており、非常にレベルが高いそばを楽しむことができます。おろしそばを食される際は、**ちよこ**（猪口）などに入ったおろし汁を直接お皿にかけて豪快に召し上がってください。また県内には少しずつ特徴のあるおろしそばを食する文化や、そば打ちを楽しむ習慣があります。そばがお好きでしたら、『**ふくいのおそばびと**』なる本やSNSを参考に、県内いろいろな地域のそばを楽しんでいただけたらと思います。

また懇親会でも「越前おろしそば」の提供を行いますので、そちらでも、ぜひご賞味ください。





第41回

日本診療放射線技師学術大会

The 41st Japan Conference of Radiological Technologists

放射線技術の イノベーション

〜期待される診療放射線技師の
役割に応えよう〜



2025.
9/12(金)▶14(日)

会場 福井駅前
AOSSA、ハピリン他

[現地+オンデマンド配信]



<https://www.kwcs.jp/jcrt41/>

会長 上田 克彦 (公益社団法人
日本診療放射線技師会 会長)

大会長 村中 良之 (公益社団法人
福井県診療放射線技師会 会長)

主催：公益社団法人 日本診療放射線技師会

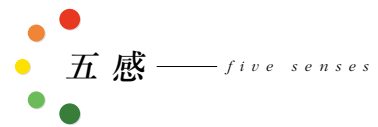
共催：公益社団法人 福井県診療放射線技師会

後援：厚生労働省(予定)、公益社団法人日本放射線技術学会、
福井県、福井市

大会事務局
公益社団法人福井県診療放射線技師会
〒910-0851 福井県福井市米松1丁目16-31 NTビル2階
E-mail : 41jcrt@gmail.com

シニア蹴球（サッカー）のすすめ 2

シリーズ連載
series serialization



第103回全国高校サッカー選手権大会の決勝はPK戦を制した群馬県代表の前橋育英高校が優勝を飾り、千葉県代表の流通経済大学付属柏高校は準優勝でした。

自分が所属する千葉県シニア（O-60）チームも関東大会でPK戦の末に優勝を逃しました。年齢を重ねてもサッカーを楽しむのは素晴らしいことです。シニアサッカーは、単に体を動かすだけではなく、仲間との交流や心身の健康維持にもつながります。

サッカーのチーム作りには、個々の成長支援、コミュニケーションの大切さなど、職場の人材育成「人を育て、成果を出す」と共通するポイントが多くあります。

1. 個々の特性を見極める
2. 目標設定と役割の明確化
3. コミュニケーションと信頼関係
4. 失敗を責めず、成長の機会に
5. モチベーション管理

またサッカーマネジメントの手法を職場の人材育成に生かす例としては、①チームミーティングの活用（サッカーの試合前後のミーティングのように、業務の目的や振り返りをしっかり行う）②ロールモデルの設定（サッカーの先輩選手が後輩を指導するように、職場でもOJT担当やメンター制度を活用）③段階的な育成プラン（サッカーの育成世代のように、基礎→応用→実践とステップを踏んで育てる）——など、「サッカーチームをマネジメントする感覚」を意識すると、チームワークや個人の成長、そして組織の成果につながりやすいかもしれません。

今、私が所属しているシニアチームでは、選手権県予選の決勝で解説をしていただいたブラジル出身の70代の方もチームメイトとなっております。とても縁を感じます。シニアになるとサッカースキルに関係なく同じピッチに立つことも可能です。人生を楽しむためサッカーはお勧めです。皆さんもぜひ、サッカーで楽しんでください。

(文責：菊地 克彦)

診療放射線技師のためのフレッシューズセミナーのお知らせ

INFORMATION

プログラムは、エチケット・マナー・医療安全・感染対策・気管支解剖・胸部撮影基礎（都道府県により違いあり）など、現場ですぐ役立つ知識です。会員・非会員を問いません。

日程と会場については変更される可能性がありますので、詳細は、都道府県技師会までお問い合わせください。

■フレッシューズセミナー開催予定： 群馬 4月20日(日)

4月・5月の講習会などスケジュールのご案内

INFORMATION

■告示研修（実技研修）／業務拡大に伴う統一講習会：

国会ホームページの「新着情報・お知らせ」またはJART情報システム（JARTIS）をご参照ください。

[e-ラーニング（ストリーミング方式）]

■告示研修（基礎研修）

2026年3月31日(火)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日から告示研修終了まで何度でも視聴いただけます。

■人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針
オンラインセミナー

2027年3月31日(水)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日からセミナー終了まで何度でも視聴いただけます。

事務所
案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。

ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日（7月13日）および年末年始（12月29日～1月3日）は執務致しません。